

(様式⑦-1 小学校・中学校)

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 「確かな学び」他者の意見を聴き自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども。 「豊かな心」9年間を通して正しい人権意識を持って行動し、自他の良さを認め合うことができる子ども。 「健やかな体」心身の健康をはぐくみ、自他の生命を大切にできる子ども。
--

堺市立さつき野中学校

校長 佐古田 英樹

令和6年度 重点目標 教師としての誇りと豊かな人権感覚を持つ ・わくわくする質の高い授業の創造:子どもと子ども、子どもと教師の協同。1人1台パソコンの活用 ・チームとして取り組む生徒指導体制の確立:いじめ未然防止、早期発見・早期対応。不登校対応 等 ・危機管理意識の向上:「～かもしれない」という感覚

確かな学びの現状 全体的に学習に向かう姿勢は良いが、全国学力テストの質問紙項目「将来の夢や目標はありますか。」の項目においては、過去数年間連続、全国平均を下回っている。このデータをさつき野学園の課題としてとらえ、R5年度は4つの情報活用能力(問いを持つ力・情報を集める力・整理分析する力・まとめ表現する力)を育成する授業づくりで、全教職員が一人一回公開授業を行い、実践を蓄積した。成果としては、教職員は情報活用能力を意識して授業をすることができたことである。一方、課題としては、生徒が情報活用能力が身についたことを自覚できているのかという意見が、反省から出てきた。そこで、R6年度は、「自覚」をキーワードに、授業研究を進めていく。また、昨年度同様、小学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、各学年「数と計算」領域の習熟をはかり、年度末には検定テストを実施する。	豊かな心・健やかな体の現状 数年前から行っている食育への取組や、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は全学年合同で行い、中学生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上を目指しながら様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、小中での交流授業を行い、様々な学年と交流しながら学ぶ機会を設けている。異学年との交流をする中で、多様な価値観に触れることができている。小中一貫校の特徴を活かし、生徒の豊かな心、健やかな体が育まれるよう、活動の工夫をしている。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、自分の学びを自覚しながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	教職員アンケートで肯定的回答が91%で、前年度の68%を上回った。	A	教職員の中で「4つの情報活用能力」が昨年度と比較し、定着してきた。次年度は、9年間で4つの情報活用能力を育成するカリキュラム作成に取り組み、さらに学習指導を充実させていく。	A	教職員アンケート結果の肯定的評価が高かったことは、先生方の手ごたえの表れではないかと思います。
			4つの情報活用能力がそれぞれ自分に身についたと思うか。	児童生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	児童生徒アンケートで、肯定的回答が80%以上であり、情報活用能力への意識が高まっているといえる。	A	情報活用能力は児童生徒にとって意識しにくいものであるが、教科の基礎となる資質・能力である。そのために、次年度は、生徒が意識して取り組むことができる授業を指導者が意図して展開し、資質能力を向上させていく。	A	アンケート結果も高く、これまでの成果が見て取れる。着実に成果を上げている。
	基礎的学力	小学校6年間の「数と計算」領域の知識・技能をもとに、数学科での計算する力を高める	習熟度別に少人数で実施することで、学力に合わせた個別最適化した授業展開を実施する。単元毎に単元テストを行い、自身の理解度を確認し、振り返りシートでどのように改善していくかを自己分析を行う	生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	生徒アンケートで、肯定的回答が85%以上であり、全学年が前年比を上回った。	A	習熟度別に授業を行うことで、個々の生徒の理解度に合わせて、授業進度を柔軟に調整することができた。また、単元テスト、振り返りシートを踏まえて、自身の苦手分野を把握し、改善に向けての対応を生徒自身で考えることができた。	A	学力の定着に向けて、丁寧に充実した取組をしていることが分かった。習熟度別学習の効果はすごいと考える。更なる着実な成果を上げるために、他教科への効果の波及を期待する。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	物事を最後までやりきる成就感、達成感が得られるようにし、自己有用感を高める。	自己有用感にかかわる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	年度末	学校教育アンケートにおける「トイレのスリッパを並べている」の項目において、約9割の生徒が並べていると回答しており、自分が困っているときに助けてくれる仲間がいると答えている生徒が多い。	A	障がい者理解教育や、拉致問題学習の活動を通して、お互いの違いを見認め合い、自分が困っているときに助けてくれる仲間づくりをすることができた。	A	お互いの違いを認め合うとともに、互いに助け合える教育を推進している。
			学級会活動、異学年交流を充実させ、自他の良さを認め合うことができるようにする。	小中異学年交流に関係する項目で平均80%以上	学校教育アンケート	年度末	学校教育アンケートにおける「お互いの違いを認め合い、友達と仲良くしている」という項目において、全員が肯定の解答をしており、6年間築いてきた仲間づくりが身となっている。	A	大運動会では、9年生が7・8年生にダンスを教え、交流を深めた。アンケートでも肯定評価95%の達成をしている。中学校では、部活動を通して、たくさんのことを教えてもらっていた。7年生と4年生で車いす体験学習会も実施した。	A	部活動や行事など中学校内でのたて割り活動にとどまらず、小学校とも交流をしており、「さつき野学園の特徴」を活かしている。
			毎学期いじめアンケートを実施し、気になる生徒に教育相談を行い対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	1・2学期でいじめ(生活)アンケートを実施し、気になる生徒から話を聞き、いじめの早期発見に努めている。	A	中学生のアンケート結果は95.6%であった。毎学期一人ひとりと話を聞いて、気になる生徒へは丁寧な対応を心掛けている。	A	アンケートの肯定率が非常に高いことから、先生方と生徒との信頼関係のもと適切なサポートがなされていることが伺える。
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業に加え、学校全体の取組である体育行事などを通して、運動への意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	運動量を確保した授業づくりや持久走を全学年で実施する。	A	体育的行事には前向きだが体育の授業では学年によって意識の差異がある。得意ではなくても意欲的に取り組める工夫が今後必要である。	A	子どもたち個々の目標や能力に応じた「運動の形」検討を願います。
			食育を充実させ、生徒が自らの健康について考える力を育成する	「食」にかかわる項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	食育委員からの動画を各教室で視聴し、言葉がけを行っている。家庭科の授業で、バランスよく食べることの重要性を指導している。	A	家庭科では調理実習を適切に行うなどして、食に対する理解を高めた。また、アンケートから朝ご飯を食べている生徒の割合が90%を超えており、健康的な生活を送る意識の向上が見られる。	A	授業を通して「食」への理解を深める取組をきちんとしている。
	地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価96%。引き続き通信などは見やすく情報を整理したものを発行していく。HPも子どもたちの様子を積極的にアップしていく。	A	保護者アンケート「学校ホームページ」では、93%の肯定回答。「学園だより、学年通信・・・」の質問では96%の肯定回答を得た。引き続き地域の方、保護者の方への情報発信を積極的に行う。校内の様子を広く知っていただくことを通して信頼される学校をめざす。	A

校長より(年度末)
【確かな学び】4つの情報活用能力「問いを持つ力」・「情報を集める力」・「集めた情報を整理・分析する力」・「情報をまとめ・表現する力」の育成に力を注いだ。アンケート結果から昨年を上回る結果を得たことから、その成果があったと考えている。
【豊かな心・すこやかな体】アンケート結果から、今年度の取り組みの成果があったと考えている。なお、個々の子どもの目標や能力に応じた運動のカタチについて検討し、意欲の向上、体力の向上に努めていきたい。
【地域協働】学園の取り組みを積極的に発信し、学園、保護者、地域が一体となった取り組みをより一層推進していく必要がある。

学校関係者評価者から(年度末)
アンケート結果も高く、学校全体で素晴らしい取組がなされていることを実感します。これからも小学校・中学校を通しての一貫した取組が充実することで、子どもたちの笑顔が絶えない学校になることを願います。
また、大項目の3つを結ぶ活動として、地域の人々や区役所・施設・企業などを巻き込んだ「地域の力」を活用した取組があっても面白いと思います。